

子どもの疑問から学ぶ 沖縄戦

1945年、沖縄戦で起こったことを知っていますか？太平洋戦争では空襲で亡くなった方がたくさんいます。沖縄戦では住民が暮らしていた場所に米軍が上陸し地上戦がありました。戦後79年を迎えた今年の夏休み、親子で沖縄戦について学んでみませんか。

沖縄から学ぶ 過去・現在・未来

2024年3月27日(水)、「ピースアクションinオキナワ 第41回沖縄戦跡・基地めぐり」が「沖縄から学ぶ過去・現在・未来」をテーマに開催されました。学習講演会「戦争体験を聞く～那覇市繁多川の住民が見た沖縄戦～」では繁多川地区の小学5年生から事前に寄せられた質問をもとに、繁多川公民館館長の南 信乃介さんと戦争体験者の波平 元維さんに沖縄戦のお話をお聞きました。

波平 元維さん

那覇市繁多川出身。沖縄戦は6歳で経験。家族で繁多川から沖縄本島南部へ逃げた。繁多川自治会長、真和志地区老人クラブ連合会副会長を歴任。現在NPO法人1万人井戸端会議理事。小中学校平和学習講演多数。

南 信乃介さん

繁多川地区公民館 館長

那覇市 繁多川

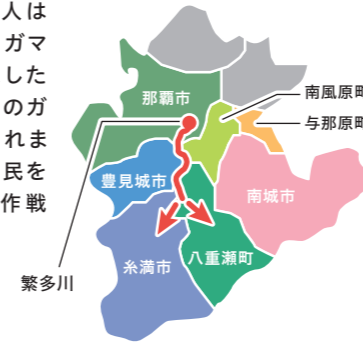


沖縄戦とは

1941年に始まった太平洋戦争の終わる1945年、日本軍とアメリカ軍だけでなく、住民を巻き込んだ地上戦が3か月以上続きました。この沖縄戦によって住民9万4,000人、沖縄出身者も含む日本軍9万4,136人、アメリカ軍1万2,520人、計20万人以上が亡くなりました。アメリカ軍が沖縄本島を南北に分けて進軍し、日本軍は5月に本部のあった首里城から南部へ撤退していきます。ここから住民の犠牲が一気に増えていきました。日本軍と住民が同じ場所に逃げのびていくことで沖縄は住民を巻き込んだ激しい戦場となり、多くの人々が犠牲となりました。沖縄戦が終わったのは日本軍の司令官が自分で命を絶った6月23日と言われています。

にげのびる中で覚えていること

日本軍はだんだん追いつめられ、南へ南へとにげて行きます。そのため、波平さんの住んでいた繁多川地いきのみんなも南部にどんどん追いかまれていきました。軍の命令で食料も全て置いてガマから引っこするように言われ、みんなで次のガマに向かいました。お年よりや子ども、体の不自由な人は軍のトラックで、元気な人は歩いていきました。ガマは軍が用意してくれましたが、20日ほどでまた別のガマに行くように命令されました。しかし、それは住民を追い出すための軍の作戦だったのです。



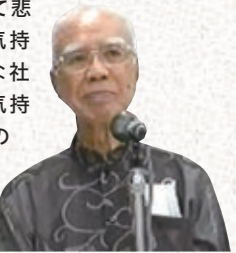
戦後のはじまり 収よう所での暮らし

収よう所には どれくらいいたのですか？

ありがたいことにわたしの家族は全員生きのびることができました。父の考えで家族がバラバラになった方がいいと、わたしと姉はしんせきのガマにあずけられました。「戦争はもう終わりました」というアメリカ軍がまいたビラを見て、ガマから出たところアメリカ兵に見つかったかまり、収よう所に連れて行かれました。収よう所では同じ地いきの人がまとめられていて2〜3か月くらしました。約1年後、ふるさとの繁多川に帰ることができました。

波平さんが今だから伝えたいこと

おきなわには昔から「いちやばちよーでー」という言葉があります。同じ時をすごし、出会った人はみな兄弟のように心を合わせて生きていこうという意味です。世界ではウクライナの戦争がまだ続いています。どうして悲しいことをくりかえすのでしょうか。よくばる気持ちが戦争を引き起こすのだと思います。平和な社会を作っていくためにはおたがいに感しゃの気持ちを持つことが大切です。相手のことも自分のことのように感じ、おたがいにどう助け合うか、理かいし合えるかを考えてください。



波平さんの感じた 戦争のはじまり

戦争は急に 始まったのですか？



みんなの家に日本の兵隊がいっしょに住んでいたし戦争はいつも近くにありました。次々と飛んでくる飛行機を見て、日本軍がわたしたちを守るために来てくれた、訓練をしているのだと思ってみんな手をふって喜んでいました。それが「10・10空しゅう」でした。とつぜん起こったこの空しゅうが、おきなわ戦のはじまりだったと思っています。おだやかにくらしていたおきなわをアメリカ軍がおそい、赤ちゃんからお年よりまでこうげきを受けました。

「10・10空しゅう」

1944年10月10日、おきなわ全いきで大空しゅうがあり、那覇(なは)の街の9割が全焼しました。空しゅうはその後もたびたびありました。

戦争にぎもんを 持ったりしましたか？



そのころは国から伝えられることを信じるしかなかったんですよ。むかしの天のうは生き神様だと言われていましたから、神様の言うことは正しい、そして神様がひきいる日本軍はぜったいに負けるわけがないと、みんなが思っていました。

ガマでの生活

「鉄の爆風」とよばれた艦砲射撃が毎日あり、のがれるためにガマとよばれるどうくつにひなんするようになりました。



ごはんはどうしていましたか？

昼はアメリカ軍のこうげきがあるのでずっとガマにこもり、夜になるとガマから出て次の日の食事の用意をしていましたね。畑からいもや野菜などを持ってきて家にもどって料理をしていました。

MEMO

「艦砲射撃」

海の上の軍艦から陸に向けたたいほうによるこうげき。はじけたばくだんが空からだけでなく下からも横からも雨あられのように長い時間にわたって絶え間なく降ってきました。

MEMO

「ガマ」

おきなわに多くみられる自然のどうくつのこと。おきなわ戦では住民のひなん場所になりました。



ガマの中には何人くらい入っていましたか？

それぞれの地いきごとにたくさんのガマがありました。わたしがいたガマは寺の近くにあって「寺の口ガマ」とよばれ108人が生活していました。男の人はほとんどが軍に連れて行かれ、ガマの中には残された女の人や子ども、お年よりがいました。



赤ちゃんが生まれたらどうしていたのですか？

わたしの妹もこの時に生まれました。たくさんの人があるガマの中では赤ちゃんを生むことはできなかったのでしょう。昼間に生まれそうになったので、母は1人でガマから家にもどり、土間(家の中のゆか板がない土のままのところ)で赤ちゃんを生みました。1人ではへそのおも切ることができないので、手を当てて妹の体温をたしかめながら夜までさんばさん(赤ちゃんを生む手助けをしてくれる人)を待っていたそうです。そして、次の日にはガマにもどり赤ちゃんを育てました。



けがをした人はどうしていましたか？

ガマをうばわれて住むところなくなったので、いっしょにいた地いきのみんながバラバラになり、こうげきの少ない夜に家族で南へ南へとにげのびるしかなかったんです。道ばたには、けがをした人や死体がたくさん転がっていました。かわいそうでつらかったですが、にげることにせいっぱいで助けられませんでした。



にげるときに こわかったのは何ですか？

にげるわたしたちの後ろから日本軍もにげてきます。その後をアメリカ軍が追いかけてきました。昼も夜もあちらこちらからの艦砲射撃が続き、梅雨のジメジメしたむし暑い時で、飛んでくる、熱くするどいばくだんが皮ふにつきさすると、きず口がくさりウジ虫がわいてくるのです。



何を食べていましたか？

にげながら畑のイモやサトウキビを食べました。サトウキビがなかったらもっと多くの人がなくなっていたかもしれませんね。何も無い時は、生きるためにネズミやカエルまでも…。口に入るものは何でも食べるしかなかったです。

見逃し配信で見よう！

ピースアクションinオキナワ

波平さんのお話を実際に聞いてみよう！
<https://peace.jccu.coop/okinawa/>



オンラインで参加しよう！

ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ

見逃し配信も 予定しています

ヒロシマ 8月4日(日)～5日(月)

ヒロシマの心を世界へ～被爆79年 戦争も核兵器もない未来を～
被爆体験の証言や高校生・大学生の取り組み紹介、合唱、書道パフォーマンスなどのライブ配信予定

ナガサキ 8月7日(水)～8日(木)

戦争も核兵器もない平和な世界を～被爆79年 ナガサキの心を未来へ～
俳優 斎藤とも子さん講演、高校生平和大使の活動報告、子ども平和会議によるアピール文発表などのライブ配信を予定